



油と水、高压下で乳化

エウレカ・ラボ 新方式の装置

【静岡】エウレカ・ラボ(静岡県焼津市、片山誠二社長、054・656・0188)は、新たな方式の乳化装置(写真)を完成し、受注を始めた。油と水を循環させながら乳化する循環式装置で、高品質な乳化処理を大量に行えるのが

特徴。価格は処理能力により異なるが、最大流量毎分100リットルタイプで1000万円から。同装置で2012年11月期に1億円の売り上げを目指す。

現在の乳化装置は、タンクの中に回転する羽根を持ち、材料を入れてからかき混ぜて乳化させるバッチ式が一般的。新開発の装置は高圧ポンプ、圧力バルブ、チャンパーで構成し、それぞれを鋼管でつなぎ、水と油、液体と気体など材料を循環させながら混合する仕組み。最大圧力0.5メガパスカルの高圧で混合するため、ムラのない均一な乳化が行えるという。

同装置は同社初の自社製品で、11年2月までに東京都江東区の東京ピッ

グサイトで開催する五つの展覧会に出品し、食品メーカーなどを中心にア

ピールする。

片山社長は元静岡県立大学薬学部製薬学科准教授。同大在職中の08年5月に、静岡県の外郭団体しずおか産業創造機構(静岡市葵区)などの支援を受け、エウレカ・ラボを設立した。